

第2回

我孫子市まち・ひと・しごと創生

有識者会議

B班

令和2年11月5日（木）

我孫子市企画課

(B班)

○坂巻委員 それでは、まち・ひと・しごと創生有識者会議を始めたいと思います。

議題に沿って進めたいと思いますけれども、ちょっと司会進行不慣れなもので、皆さんの協力を得ながら進めたいと思いますので、よろしくお願いします。

皆様の資料のほう、事前に見ていただいていると思いますので、先ほど事務局のほうからもありましたけれども、スムーズに進めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、最初の31番から38番までの評価ということで、8個の事業があるうちの33、34、38が遅延になっておりますので、そのまづ33のところの事業から意見をいただきながら進めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○事務局 こちら、補足のほうをさせていただいてよろしいですかね。

33番のファミリーサポート事業なんですけど、この年から、これまで民間のほうに委託をしてきたんですが、それがプロポーザルによって事業者が変更になっています。その関係で、前の事業者のほうがいいなという方もいらっしゃって、新しい事業者に変更することなく前の事業者にそのまま継続でお願いをしている方たちもいらっしゃるというふうに聞いています。

あとは、提供会員さん、要はお子さんをお預かりしてくださる方たち、これまでは事業を始めた当初に登録をした方たちの名簿が全て残っていたそうなんですけど、高齢化等によって実際に活動ができなくなった方たちも多くいらっしゃるということがあって、その名簿の整理をしました。ということで、実際に稼働する方たちの実人数になったということで、こちらの会員数の方が減少しているという報告を受けております。

ただ、事業をやっていく上で、サービスのほうは持続的にできているということで運営自体には問題はないであろうということは聞いておりますが、1年目で新しい事業者さんなので、所管する保育課でも様子を見たいということで報告がありました。

以上です。

○坂巻委員 令和2年度から、この目標値というのが62人とかに変わったんですね。

○事務局 そうですね。だから、がくんと減っているんで、今まで200人台が。なので、提供会員さんのほうが大幅に減っていますね。

○坂巻委員 今の補足の意見を伺って、何か意見はございますか。

○山下委員 でも、減っている理由があるということですね。

○坂巻委員 そうですね。

目標値の見直しを行っておるので、このまま継続して見守っていけばいいかなとは思いますが

けれども。

○事務局 そうですね。次のときには、この目標値のままがいいのか、ちょっとそこは考えなくちゃいけないなというふうには考えていますので、またそのときにご意見をいただきたいと思います。

○坂巻委員 よろしいですか。

○加藤委員 コロナがどうなるかによって、全然、どうにもならないですから。

○事務局 そうですね。ただ、保育園さんのほうで預かっていただけないところもあるので、やっぱりファミリーサポート、ご自宅で預かっていただくというサービスを使う方は増えていく。あと、これからの時期ですね。インフルエンザですと一応学級閉鎖の規模が決まっています、学級人数の少ないところなんかは、本当に1人、2人出るとすぐ学級閉鎖になってしまうんですよ。そういった場合には、このファミリーサポートをお使いになる方が非常に増えてきますので。事業としてはきちんと継続をして、今後コロナも含めてどういうやり方がいいのかというのは模索していかなくてはいけないと思いますね。

○坂巻委員 よろしいですか。

では、そのようにしたいと思います。

次、34番のほうです。父親対象のイベント。

こちらは補足はないですか。

○事務局 コロナの関係で大きなイベントが中止をしているということもありますけれども、そもそもの子育て支援施設の開室日を減らしているんです。特に湖北・布佐方面は、ちょっと土日の利用自体が非常に少ないということで、コロナも含めて閉鎖日のほうを多くしているということもありますので、その影響が出ているかなと。3月ですね。

あとは、お父さん向けに特にイベントをやらなくても、ふだんからお父さんが子育て施設に来ていただけるようになったということがあるようなので、あえて父親向けというふうに銘を打たなくてもいいようなイベントになっているということもあります。

○加藤委員 ただ、こういうところに集まったときに母親同士は結構交流があるんですけども、父親は来て、子どもと遊んだら、それで帰っちゃう人が多いですよ。

○事務局 話を聞くと、今は、お父さんも同士もお話をされる方がいらっしゃると聞いています。

○加藤委員 なかなかできにくいという人もいますので、本当は何かあったほうがいいかなと。

○事務局 そういうのもあって、当初は父親向けのイベントを多くやっていたんですが、そう

いうところでお会いしているうちに結構仲良くなって、お休みが会えば誘ってくるという方もいらっしゃるといってお話は聞いていますので。

○加藤委員 まあ、でも、継続しないと、きっと仲よくした人たちが声をかけてくれると思うので、その人たちが卒業してしまうとまた途切れるかなと。

○事務局 確かにそのとおりですね。自分のお子さんの年齢に合わせてですね。

そういう意味では、やっぱりイベントはそういうきっかけづくりが必要ということですかね。

○加藤委員 定期的には要るんじゃないかなと思います。

○事務局 ありがとうございます。

○山下委員 少ないから悪いということではなくて、これぐらいで結局、今の状況からすれば適当なんじゃないかということなんですよね。

○事務局 そうですね。

○山下委員 アウトカムじゃなくてアウトプットから、それだけの強制的なニーズがあれば増やすし、そうでなければ実施しないというものであれば遅延という形でもまあいいかなと。

○坂巻委員 これ、あれでもんね。幼稚園・保育園とか通園している方、していない方かわらず、多分参加しているじゃないですか。園に多分通園されている保護者の方が、園でもそういう行事があるので、多分両方行っていたりとかする人もいるし、園に通っていない人で行くという方もいらっしゃると思うんですよね。

○事務局 そうですね、パパ育の場が広がればということですね。ありがとうございます。

○坂巻委員 34番の事業は大丈夫ですか。

次に、38番です。病児・病後児です。これは補足はないですか。

○事務局 これは例年どおりというか、やはり複数の病気が重なると隔離をするお子さんの数によってお部屋がちょっと限られてしまいますので、それでやむなくお断りをするケースがあるというのは依然として続いています。ただ、これまでこの会議の中で保育士の体制であったり、そういうことはきちんと見直しをしてくださいという意見をいただいて、所管課に伝えたところ、そういうことについては対応していただいているので、受け入れ側の態勢が整っていないという状況はここ数年は見られていないです。

ちょっと物理的に受け入れられないお子さんの増減があるというところで、状況によってやむなしかなと。今後は、コロナのお子さんとインフルのお子さんとをどうやって分けていくのかとか課題は出てくるのかなというふうには思っておりますが、そこも様子を見ながら、これからの時期ですね、一番。

○事務局 コロナで1か月お休みしていたというところもあるので、令和元年度は。今年度はそのあとまた下がる、6月末まで。

○事務局 結構、病院離れもお子さんは多いと聞いていますので。うちのほうで何か要因があって減っているわけではないということなので、致し方がないかなというところですね。目標値がかなり大きいというのがありますね、見直しはしたものの370ですので。

○事務局 子どもの数も減っている中でなので、前々から利用を希望する人がどれだけ利用できたかという受入れ率みたいなもののほうがいいんじゃないかというご意見をいただいていると思うので。数だとなかなか難しいところがあるかもしれません。

○事務局 次のときの見直しの課題の一つですね。100%ではいかないですけども、やっぱり受入れ率が高くなれば、それだけ需要に応えられているということになりますので、ちょっとこちらの指標のほうは次回見直しの案件かなというところですね。

○坂巻委員 遅延していますけれども、大丈夫そうですかね。

○加藤委員 どれぐらい利用できたか、どれぐらい断れたかという、そっちのほう。人数じゃ分からない。

○事務局 そうですね、前もご意見をいただいて調べましたね。ただ、先ほど申し上げたように病気が重なってちょっとお預かりできないという方がいらっしゃるの、100%にはならないというところではあります。

○山下委員 これはあれですか。以前も聞いたんですが、ベッド数というか部屋の人数、保育士の数に対して何人、1対何人なのか。幼稚園とか保育園とか、例えば1人に対して6人とか決まっているんですけども、その保育士さんに対するものじゃなくて、利用人数なるんですよ、きっと。

○事務局 利用人数……病気の種類によってですね。

○山下委員 なかなかやっぱり難しいですね。

○事務局 そうですね。特にインフルの時期になると、もうおそれがある子はその子1人だけで隔離というふうになるので、1つ使ってしまうんですね。

○坂巻委員 どうぞ、ほかに何かありましたら。

○山下委員 事業の意義とか必要性がなくなっているわけではないので、その指標の振り方をちょっと考えたほうがいいですね。

○坂巻委員 そうですね、それを課題にさせていただいて。

それでは、31から38の評価ということで、8事業のうち3つが遅延ですけども、ほぼ順調

ということでもよろしいでしょうか。

○山下委員 はい。

○坂巻委員 加藤委員も大丈夫そうですか。

○加藤委員 はい。

○坂巻委員 じゃ、ほぼ順調ということでお願いします。

じゃ、次に、事業39から47の評価ということで9事業あります。そのうち39、40、42、45が遅延ということで、最初に39の発達センターのところでの意見をお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

○事務局 遅延ばかりです。

○坂巻委員 うちの園で巡回することになって、今日来ているんですけども。10時ぐらいから来られて、一緒に給食を食べ、様子を見ていただいているような感じですけども。

今は、確かに学習障害のLDとか、多動性の障害だとか注意欠陥のADHDとかいろいろあるんですけども、以前というか昭和とか昔の時代からすれば、細かく見過ぎていて、ちょっとチェックに入らなくていいような子も、個人的には、それが一つの個性として捉えるというのも多いのかなと思うので、あまり細かく見過ぎているのも。そんなことはない、もちろんそういう障害を持っている方もいらっしゃるんですけども、またはグレーゾーンの方とかいろいろいらっしゃるんですけども、その障害とかを含めてもそれも一つの個性と捉えればあれなんですけれども。でも、この事業自体はものすごく大切なもので、遅延しているといってもそんなに少なくないだろうと思いますけれども。

○事務局 そうですね。子どもの母数が減っているの、そこが多分一番大きく起因はしていると思いますね。今おっしゃったように、早期発見というところでは非常に、ちょっと何か気になることがあるとケースとして見ていただいているというところがあるので、それほど愕然と落ちる数字ではないものの、母数が減っているの、それなりの伸び方をしているというところですかね。

これも目標値が820でマックスのときの目標値にしているので、そことの乖離があってパーセンテージがかなり低くなっていますが、ただ昔に比べると随分受入態勢のほうはできているので。

○加藤委員 これは、私、見方があまりよく分からないんですけども、相談したりとかこういう相談に保育園とか市保健センターとか学校からちょっとと言われたときに、発達センターで割とすぐすと受入れができるんですか。

○事務局 そうですね。以前は1か月以上待ちだったんですよ。それを何とか解消しようということで職員の体制を強化しましたので、今はそれほど待つ時間はないというふうに聞いています。ただその反面、働いている親御さんが増えているので、そこと調整ができなくて、なかなか最初の面接にこぎつけられないという実情はあるということは聞いております。

○加藤委員 そうですね、働いている人増えているからなかなか面接等も難しいですね。

○事務局 そうですね。ただ子どもの成長は早いので、市長の方針で、できるだけ早く初回の面接をといるところの態勢は取っております。

○加藤委員 できているならいいんじゃないでしょうか。でも、これから働く人はもっと増えるから、その対応とかは考えていかなくちゃいけないと思いますね。

○事務局 そうですね。そういう意味では、今、坂巻委員がおっしゃったように、発達センターの職員が園のほうに行ったり訪問したりという方策も取っておりますので。

○加藤委員 子どもだけ見ればいい問題じゃないですからね。

○事務局 そうなんですね。そのとおりです。

○加藤委員 親のほうに問題がある場合もあるんじゃないですか。親と会わなくちゃしょうがない場合も。

○事務局 そのとおりです。

○加藤委員 子どもだけの問題じゃないですよ。

○事務局 なので、来ていただくときには、もう限りなく親御さんと一緒に来ていただいて、家族支援という視点をすごい大事にしようというところは持っています。

○坂巻委員 多分、下の40のところの都合によりキャンセルなんていうのは、多分親の都合なだけでつながってくるかなと思います。

取りあえず39のほうは、ほかにご意見いかがですか。

○山下委員 実人数というのが本当に減っているという話ですよ。やっぱりそれは、次は指標について見直しが必要かなと思いますね。

○事務局 そうですね。

○坂巻委員 やっぱり役所的に目標値は少し高めに設定とかあるんですか。

○事務局 当然達成すれば、そうですね。ありますね。せいぜい同じ。なかなか下げるのは難しいです。

ただ、これだけ人口減少が続いてくると、やっぱり指標のほうはかなり見直さないといけないという実感はありますね。

○加藤委員 効果があまり変わっていませんよね。

○事務局 効果が上がっていないわけじゃないので、皆さんおっしゃるように、目標値がちょっと、設定したものが高かったというのが実情あると思います。

○加藤委員 近所では、松戸なんかは発達センターは待ちまくりで全然、なかなか行けないというのでそれに比べたらずっといいなと思いましたけれども。

○事務局 そうなんですか。

○加藤委員 松戸は子どもが多いですからね。発達支援センターになかなか行けないという話を聞いていますけれども。

○事務局 そうなんですか。我孫子は多分すごい頑張っていると思うので。

○加藤委員 やっぱり心配なときにすぐ行けるという、心配でもなかなか待たされて、延々予約が取れなくて行けないとかという話でしたので。それができていればいい気がするけれどもな。

○事務局 すぐつながるとか、そういう意味では40番の最初の相談までの日数というところですね。ちょっと若干30日を超えてしまったんですが。そうですね、なかなかやっぱり親御さんのご都合ですね、多いのが。

○坂巻委員 やっぱり30日以上超えてしまうと、行くのが覚めてしまうというのがあるんですかね。

○事務局 やっぱりタイミングが。ただ以前は本当に保護者のほうから、それこそ松戸じゃないですけども、苦情が来るくらい、やっぱりつながりにくいというところではありましたが、そういう意味でいくともう少しちょっと短めに目指すというところではいいかなと思いますね。

また、ちょっとこの冬の時期はお子さんの体調が崩れて急にというのはありますので、そこも含めて、でも早めに面接を目指すというところの姿勢を取ることですね。

○坂巻委員 この体調不良、都合の悪い244人中121人というのは、年間通してということですか。

○事務局 そうですね。この事業に限ったことではないですけども、病児・病後児とかもそうですし、結構予約をされていて急にキャンセルとか、子ども関係は比較的多いですね。

○山下委員 例えば親のほうの都合とか、子どもさんとか、そういったものを結局超えてしまったところのカウントから削っていくということもありだと思えますけれども。行政の都合でなかなかできなかったというのと、先方の都合でできなかったというんですか、そういうの

は外してもいいんじゃないかと思います。

○坂巻委員 その辺の目標値の考え方も担当課と相談していただきながら進めていただきたいと思います。

○事務局 そうですね、ありがとうございます。了解しました。

○坂巻委員 それで39、40はおしまいということで、42のほうですね。不登校についてということで、ご意見がありましたらよろしく願いいたします。

○事務局 不登校率は、残念ながら中学校で非常に伸びていて、令和元年度も伸びているんですが、現状だとコロナの影響で不登校率が上がっているんですよ。なので、今のやり方ではいけないなというところで、今、模索をしているところですが、子どもたち、私たちが思うほど、いろんなパソコンとか携帯とかそういうものに対応しているのと同じように、どういうふうに対応していったらいいのかというのが日々変わってくるので、ちょっとそこをいろいろな方たちに意見を伺いながら、どういうふうに対応していったらいいかなというところをちょっとやっています。

今、電話相談をやっているんですが、電話、そもそもかけるというのがあまり今の子どもたちはないんですよ。なので、件数がもう本当に伸びてなくて、なので、対面式で面接がきちんとできるようにとか、あとはアナログですけれども手紙で、自分の所在が分からないようにしてもらおうとか、ちょっといろいろ手法のほうを考えて進めているところです。

○加藤委員 どうなんですかね、不登校は増やさないほうがいいのかな。

○事務局 いや、今はそこも大分方針を変えてきて、学校に来なくてはいけないじゃなくて、学校以外でもその子がいれる場所があればいいというふうに方向転換をしていますので、今、「ヤング手賀沼」という学校以外で子どもたちの授業日数、そこに来ればいいよという施設をそろえているんですが、そこに来る子どもたちが、大人がたくさんいるということで、今年になっては増えています。さらに、今これを拡張しようという計画もしていますので、必ずしも学校に無理やり行かなくてもいいよという方向性に転換しています。

○加藤委員 絶対これから増えると思うし、どんどん増やしていくというわけでもないけれども、何かでも日本の学校は牢獄みたいだから、無理かなと。やっぱり受け入れる場所がどれぐらいあるとか、どれぐらい通っているとかという指標が。

○事務局 今、ヤングはないんだよね、これ。たしかね。

○事務局 指標にはないかな。

ヤング手賀沼というのも、我孫子は東西に長くて、小学校13校、中学校6校がいろんな地域

であるんですけれども、ヤング手賀沼、あそこは中心と言えば市の中心なんですけれども、どちらかという東側の子が利用しやすいような状況で、なかなか西側にケアができていないというところでした、人口のバランスで見るとちょっと場所も、なので、今、言ったように拡張といたしますか、そういうことも。

○加藤委員 そうですね、いろんな場所にできるといいですね。

○山下委員 NPOですか。

○事務局 いや、市で。

○山下委員 こういう活動は、結構NPOなんかやっています……

○事務局 やっていますね。柏、松戸は結構民間さんがおやりになっているところが、フリースクールみたいなものが多いですね。我孫子はちょっと残念ながらそういうものはないので、結構やっぱり柏、松戸に行かれています方は多くいらっしゃいますね。ただ、そうではなく、市として、元教員の方、その方が中心になって子どものいられる場所というのをつくっているのです。

○坂巻委員 これは、アドバイザーというかそういう職員の体制は足りている感じですか。

○事務局 今は、もともとは別の建物で1つ用意をしていて、そこに職員が2から3名体制で、大体1日5人ぐらいお子さんを見ていたんですが、ちょっと今その建物が使えなくなりました。今、湖北台東小の教育研究所のある建物の中にお部屋が空いているので、そこを活用して使っているんですが、そこは教育研究所の職員、スタッフもかなりいますので、その方たちが対応してくれるという安心感からか利用者が増えています。

○坂巻委員 例えば小学校1年生から不登校の子がいるかもしれないですけども、途中からの子もいるかもしれない。例えば小学校からすぐに不登校が治るわけでもないかもしれないので、小学校、中学校一貫して、例えばスタッフと利用するその子どもの相性が合えば、一貫してそのスタッフでトータルして見る。あるいは、人が変わったほうがいい児童もいると思うので、そういった人との対応というか、余計嫌だと思ってしまうかもしれないし、その人だと。その人と人との関係なので、相性がいい人に当たったら一貫してずっと見ていってあげるような体制だったらもっと、なおさらいいかなと思いますね。年度ごとに担当が変わってっちゃう、ペーパーだけで引継ぎしていくのはあまりよくない。

○事務局 確かに、そのとおりですね。

○坂巻委員 一貫して見れる体制の人数の確保。だから、本当に市がお金かけていくかということになっちゃうんですけども、もし不登校とかそういった発達センターとかそういったところにお金がかかけられるんだとしたら、まず人数を確保して手厚くというのが一番いいかもしれま

せんね。

○事務局 そうですね。やっぱり人が替わるというところが一番親御さんも子ども自身もすごい不安だという声は聞いているので、そういう意味では、これまで発達センターの所長だった者が、2年前かな、教育研究所の所長になっているんですね。そのことによって小学校に上がる不安というのが非常に解消されたというお声もいただいているので、今言ったやっぱり人、そういうところで支援が大切なのかなというところは思いますので、今そういった意味では、相談体制をどういうふうにしていくのかという人員体制のところも課題ではあるので、ちょっとそこについても附帯意見として載せたいなと思います。

○加藤委員 でも、中学校が増えているんですよ。

○事務局 そうですね。

○加藤委員 しょうがないけれどもね、現実的に。だけれども、中学校は大人より何かもうちょっとピュアな感じの人たちがサポートに関われないのかなと思いますけれども。大人に反発するお年頃じゃないですか。

○事務局 あとはやっぱり、お友達とか部活ですね。

○加藤委員 不登校を経験した年上の20代ぐらいの人とかそういう人たちが欲しいなど。何か学校の先生を卒業して、学校ではおっさんたちがおるのに、またここでもかよみたい。大人の言うことを聞きたくない世代だから、若いというか小学生と対応は違う気がしますね。やっぱりうちの中学生なんかは、チッと引かれてばかりでしたもの。

○坂巻委員 昔、教育委員会のときに、川村の心理学を学んでいる学生のボランティアと東京理科大の学生さんを募って、今は水海道のあすなろの里というところがあるんです。あそこに長欠児童の子どもを7、8人連れて3泊4日ぐらいで合宿したときがあるんです。どこかに行ってちゃったみたいなので探しに行ったりとかしたんですけど、そういった学生さんをボランティアとかにするのもいいかもしれないですね。

○加藤委員 やっぱり年齢近いほうが中学生はいいなど。やっぱり一番自分の親ぐらいの世代に見られたくないと思う。嫌だなど、60とか50歳の。

○事務局 確かに。うざいと言われますからね。

○加藤委員 うちでも親にうるさく言われて、またここでもかよみたい。

○事務局 そうすると、さっき手法をいろいろ考えていると言った中の一つで、今、坂巻委員から出た川村学園さんのほうに心理発達のセンターがあるんですね。そこだと若い方たちが学生さんとか院生の方たちがいるので、ちょっとそことの連携をどうしたらいいかなと今考えて

はいたのですが、ご意見として聞くとやっぱり、そういうところで学生とかと話す機会とかの
ほうが、おじいちゃんおばあちゃんとかとしゃべるより、もうちょっと気軽に話せるのかなと
いうのを思うので。

○加藤委員 中学生はやっぱり若くないと駄目だと思います。

○坂巻委員 幼稚園児とかはおじいちゃんおばあちゃん大好きなんですけれども、年齢によっ
て。

○事務局 そういうことですね。

○加藤委員 中学生はやっぱりアプローチしないと。

○坂巻委員 友達みたいな感じじゃないと。

○加藤委員 やっぱり話そうという気がなかなか起こらないんじゃないですかね。

○事務局 そうかもしれないですね。

○加藤委員 よっぽど信頼して、この人はうちの親なんかと違うと信頼関係を築くまでに相当
時間がかかるだろうし。それで、やっと築いたらいなくなっちゃうかもしれないし、若者は若
者同士で近いほうがいいかなと。そういう人たちをボランティアに入れる感じで。

○事務局 心理センターとちょっと頑張ってみようかと思います。悩んでいたんですが、
これで吹っ切れました。

○加藤委員 ぜひぜひ。

○山下委員 ちょっといいですか。指標の立て方で、これは不登校の出現率というのを単に学
校生徒さんの中で不登校の人がいると思うんですが、これは全国平均とか千葉県平均とかとい
う数字はあるのかな。要するに、そういった全国平均とか千葉県平均と比べて我孫子はどうか
という、そういう評価の仕方じゃなくて。

○事務局 たしか、そんなに低くないんですよ。

○事務局 ちょっと高かった気がします、我孫子のほうが。

○山下委員 我孫子のほうが高いんですね。

○事務局 我孫子はそんなに低くはないですね。

去年、同じような質問を受けて調べたら、あまり低くはないですね。

○山下委員 それも一つの考え方としてあると思うんですよ。今の現状から減らしていくと
いう話もあるけれども、全国平均とか千葉県平均、東葛地域などで考えてもいいんですけども、
何て言っても南のほうとこちらの都市部と平均違ったりするし。

○事務局 そうですね。

○山下委員 不登校は、すみません、私よく分からないので聞くんですけども、どうなると不登校となるんですか。

○事務局 ここにカウントされているのは、病気や経済的な理由以外で年間30日以上休んだお子さんです。

○山下委員 対策として、心の教室相談員で、これ子どもさんに対していろんなカウンセリングをしたりとかするんですか。

○事務局 親御さんも含めてです。学校の中にお部屋があって、そこに週何日か指導員のほうにいますので、親御さんも含めて、親だけで相談に行かれる方も当然いらっしゃいますし、お子さんだけという方もいらっしゃいます。

○山下委員 そうですね、親の原因も結構あったりとかしますものね。

○事務局 そうですね。そのとおりです。

だから、親御さんも結構悩みを聞いてくれるところがないと行って来られる方も多いですね。だから、そういう意味でいくと、さっき加藤委員おっしゃったように家族支援というのが非常に大事になるので、そこは拒否をすることなく相談体制のほうはとれていますね。

○山下委員 分かりました。

○加藤委員 市での運営じゃないかもしれませんが、そういう親同士の会みたいなのに本当はつながるといいですね。それで、あまり顔見知りじゃないほうがいいから、あまりこの地域で集まらないほうがいいのかもしれないけれども。そういうのは全国的にもあるので、そういうのに参加できる人はいいんだけども。

でも、このコロナのおかげで大分Z o o mとかもいい感じになってきたので、使える人とかも増えてきたので、本当は全国ネットでつながるといいなと思うんです。やっぱり同じ立場の人と話したほうが、上からアドバイスを受ける立場じゃなくて、同じ悩む人たちと。そういうものの紹介とかはできるといいかなと。

○事務局 相談員の方も決して皆さん、もうお若くはないので。

○加藤委員 だから、やっぱりそういうものの活用とか、そういうものの紹介とか。Z o o mみたいのもやるかやらないかというハードル超えるか分からないので、ちょっとやらせてあげると大したことなくて、皆さんスマホは必ず持っている感じなので、どんなに貧しくてもこれだけは離さないという話だから、あったらできるんですけどもね。

○事務局 ちょっとそういうのも、スマホでね。

○坂巻委員 今の件を一旦持って帰っていただいて、相談していただきたいと思います。よろ

しくお願いします。

では、45番のほうですかね。我孫子市産の米・野菜のところですね。

ご意見ございましたら、よろしくお願いします。

○事務局 ちょっとこれは非常に残念ですね。

○加藤委員 しょうがないですよ。

私、今度、中学校にキャリア教育で行くんですけども、農家のおじさんとかだったらおもしろいのね、うちの野菜ですと。なかなかこういうのは大きい声を出して言うのは難しいでしょうけれども、インパクトのところ、文字でいくらこう口で言っても、きっと響かないと思うので、そこのおじさん来たよみたいな。

○事務局 だから、毎回同じことじゃ駄目なんですかね。

○坂巻委員 でも、この次に何かしようという考えがあるんですよ、きっと。我孫子で作っている米・野菜だよという周知徹底がされました、その次のステップというのは、もちろん何か考えての最初はこのスタートなんですかね。

例えばですけども、一緒にさっきも言った農家さんと一緒に見学する、作業に参加する、あるいは給食室の方の調理員さんとお話しとかができたとか、あと保護者が給食を食べられたりとか試食会みたいなのがあったりとか、何か次につながるものが。何か次に、教えただけ、知っただけじゃなくて、その次に、最初の入り口だったらいいんですけども、この次に何かあるということでこの事業なのかどうかという。

○事務局 そうですね、確かに。これだけやっても何の意味があるのと。

○坂巻委員 取りあえず献立に入れておけばいいかなと。

○事務局 残念ながら、ちょっと次があるかどうか。ないかもしれないですね。

○事務局 今はつながっていないですね、きっと。

○坂巻委員 うちの園の献立表にも、以前3.11のときに福島・新潟米混合とか書いてあったんですよ。ある保護者が福島はやめてくださいと。違うところのお米にしましたけれども、見ている方は見ているよね。その次に何かつながるものが必要というか。

○事務局 確かに。

○加藤委員 給食の参観みたいなのはいいんですか。

○坂巻委員 うちではありますね。今はコロナであれですけども、クラスごとで呼んで、子どもさんと親は分かれています。本当は一緒に食べさせてあげようかなと思うんですけども、来れない保護者もいるんですよ。そうすると、誰々ちゃんのお父さんお母さんは来ているけれ

ども、うちは来ていないみたいになっちゃうとあれなので、同じホームで食べますけれども、園児は園児で固まって、その様子を見ながらこっちで保護者が一緒のものを食べる感じです。

○事務局 そういう気づかいも必要ですね、確かに。

○加藤委員 松戸は小学校とかありましたよね。

○事務局 小学校は今、入ったときだけかな。毎年毎年というのは今やっていないですね。最初だけ。

○加藤委員 ほかの学年が何か外部に遠足とかでないときにやっていましたね。

○事務局 中学生も1回だけ、中1になったときだけはありますね。

○坂巻委員 大きな食育というテーマで周知徹底してから次につながる。参加型の農家みたいなのかなとか。

○事務局 これ、もう一つのグループの方でも意見を伺ったほうがいいですね。あっちで農業系のほうをやっているの、それこそ新規就農者の方がなかなか増えないとか、あとボランティアの人とかが増えないとか課題があるので、そういうところに将来的につなげていくための学習というところで考えると、もうちょっと展開が必要なところもあるかと思うので。

明日、もう一グループのほうもやるので、そちらの課題等も含めて投げたいと思います。大きな課題ですからね、就農者が減っているというのが。

○事務局 そもそもその先がないと、それ自体も頑張れないですね。みんなに知ってもらおうという意味がなければやらないですね。

○事務局 確かに、何を目的にやっているんだという話ですね。おっしゃるとおり。そうですね。

○坂巻委員 それを提案していただきながら、進めていっていただきたいと思います。

事業の39から47の評価ということで、9事業のうち4が遅延ですけれども、どうですか。ほぼ順調みたいな感じでよろしいでしょうか。順調ではないですね。

○山下委員 39と40の遅延ということで理由があるという中で、外部的な要因もあると思うので、42と45。この2つということであれば、ほぼ順調でもいいように思うんだよね。

○坂巻委員 あと、いかがですか、順調という意見がありますが。

順調ということでよろしいですか。

○事務局 順調で大丈夫ですか。

○山下委員 ほぼ順調。

○坂巻委員 ほぼ順調で。

○事務局 ほぼ順調で。学校給食のところがあれですね。

○坂巻委員 そうしましたら、48から52の評価ということで、5つの事業のうち3つが遅延ですね。48、49、50が遅延になっておりますので、まず48ですね。自らの健康について気をつけている人。よろしく申し上げます、ご意見のほう。

○事務局 48も先ほどの学校給食と同じで、それほど伸びなかったですが、ほぼ横ばいというところですかね。

○坂巻委員 これを見るといろいろやっていただいているという感じですよ。リーフレットとか情報発信とか。

○事務局 そういのはやってはいますね。

○坂巻委員 いろいろやっていただいておりますので、このまま継続していただければと思うんですけれども。

○事務局 そうですね。

○坂巻委員 特にコロナ禍なので、健康については皆さん気をつけていると思うので、興味のある皆さんも。

○事務局 もっといそうな気もするんですが、なかなかアンケートの結果なので、思いのほか数字が伸びなかったというところだと思いますが、引き続き取組を進めていくというところですかね。

○坂巻委員 これはアンケート調査をして、結果は何か出てきた……お知らせというか、アンケート取ってから集計結果が分かるような。

○事務局 アンケートは、健康相談か。

○事務局 計画のあれだけで使って、特には。あるのはあるとおもいます。

○事務局 計画策定のための意識調査とかであれば、当然報告書はあると思いますけれども、ひょっとしたら調査票みたいな、個人個人に対面でやったりするようなものだとちょっとそこまではないかもしれないです。

○事務局 でも、「第2次心も身体も」でやっている。

○事務局 それはありますよね。

○事務局 アンケートはやっているから。

○事務局 ここの訪問とか健診とか、健康相談におけるアンケートというのはちょっとないかもしれないですね。

○事務局 何がそんなにあれなんだろうか。でも、あればちょっと参考にいただいてみて、中

を見てみるのもいいかと思うので、ちょっと所管課に確認をしてみます。

○坂巻委員 いかがですか、ご意見。

○事務局 これは次回のときに。もしまとまったものがあればメール等でお送りすることもできるのでは。

○坂巻委員 じゃ、お願いします。

次に進めたいと思います。

49ですね、スポーツ大会。

○事務局 33ページにイベントごとの推計のほうがあります。

○加藤委員 すみません、タートルリンピックとはどんなものですか。

○事務局 タートルリンピックは、高齢者向けの体育祭です。

○加藤委員 ゆっくりのタートル。亀。

○事務局 大きいところがあるんですね、ちょっと参加者のほうが少なかったのでは。

○山下委員 これ前に聞いたときには、天候かなんかの理由で開催できなかったマラソンイベントかなんかが……

○事務局 ありましたね。

○山下委員 そうなのは、すごく大きく影響しちゃうでしょう。

○事務局 そうですね、マラソン大会は通常の参加人数も多いので、中止になるとそれだけで数かなり影響してしまいますので。

○山下委員 それは健康増進の施策とはちょっとかかわらずに減ってしまうような。人数でやっていくというのは、何かちょっとあまり……

○事務局 そうですね、昨年もご指摘は受けているので、次の指標のときにはやっぱりこの人数というよりは、市としてイベントに取り組んでいく姿勢というのが見えるような指標がいいかなというふうには思っているんですが。

○山下委員 コロナとかにも影響される可能性がありますよね。

○事務局 そうですね、そのとおりです。

準備はしていたものの、やっぱり直前で中止をしなくていけないものも出てきますので、ここについてはどういう指標がいいのかは要検討だと思っています。

やっぱり我孫子市は、全体的にほかに比べてこういうイベントが多いんですよ。なので、どうしても指標を稼ぐために人数とかというものをどうしても設定しがちなんですが、ちょっと今回コロナとかお天気の関係で課題が見えたので、そこについてはいま一度考えたいと

思います。

○坂巻委員 大丈夫そうですか。指標を少し考えていただくような形で。

○加藤委員 1個聞いていいですか。市民体育大会は、普通の運動会っぽいやつですか。

○事務局 いや、市民大会の中にテニスであったり野球であったりサッカーであったり、それが時期をずらしていろいろな会場でやっているのを総称して市民大会ですね。

○加藤委員 なかなかハードなのを町会とかでやっているけれども、大丈夫なのかなど。看護師としてバイトに来ませんかと言われるけれども、年々やる人が少なくなって参加者が少なくなって、その辺はどうなのかなど思ったことがあったものですから聞きました。よくアルバイトにどうなんて聞かれるんです、救護所の。

○事務局 ある一定数の参加者の方はいらっしゃると思いますね。

○加藤委員 いっぱいイベントが、稼ぐのもあれなんだけれども、参加の多いものに何かもうちょっと予算とか何かを集中するとかのほうが、今の時代どうなのかというのものもあるのかなと。内容が分からないとあれなんですけれども。

○事務局 そうですね。いろいろ書いてはありますが、中身はそれぞれなので、チャレンジスポーツフェスタとかは親子で参加ができるものであったり、市民大会は、それこそ今言ったように、ふだん練習している成果を出す場というところになりますし、マラソンは大きなものが新春マラソンとエコマラソンが大きくありますけれども、こちらは市内に問わず、かなり広域から皆さん参加されていますし。

○加藤委員 市民だけじゃないんですね、これは。

○事務局 そうですね。ふれあいウオークも市民だけではないですね。

○事務局 人数は市民ですかね。

○事務局 人数は市民かな、規模でいくとね。

○事務局 かもしれないですね。

○事務局 かなり大きくやっているからね。柏と我孫子でやっているんですが。

○加藤委員 市民じゃないとあまり指標にならないですよ。

○事務局 でも、柏のほうが撤退しているから人数が少なくなっているかもしれない。

○事務局 ふれあいウオークも何かガス展とかほかのイベントと……

○事務局 そう、抱き合わせにしてもらった。これは純粋にウオークの参加者だね。

○坂巻委員 スポーツテストがちょっと寂しいかな。スポーツテストは、小中学校もやっているんですか。

- 事務局 やっているんじゃないですかね。大人のスポーツテストみたいなやつで。
- 事務局 それはスポーツ教室じゃないですか。
- 事務局 大人のスポーツテストやっていますよね。反復横跳びとか。
- 事務局 それがスポーツ教室だよね。
- 事務局 スポーツテストになっています。
- 加藤委員 スポーツ教室じゃなくてスポーツテスト。
- 事務局 上から4番目の。
- 事務局 これか、はいはい。
- 事務局 あまり知られていないのもあると思うんですよね。
- 事務局 確かに。
- 坂巻委員 面白いイベントになれば、参加者というのは。
- 事務局 確かに知られていないと言われると、否めないですね。
- 加藤委員 どうなんですかね。意識の高い人は、それこそスポーツクラブ、ああいうところで自分でチェックしているし、これをやる意味はどうかなという気はしなくない。何だろう、子どものスポーツテストと違って、老人の体力テストとかのほうがよくいいんじゃないかと。こんなにすごく上がっていますみたいなね。時々、テレビとかで、とある市町村とかで取り組んで、こんなに上がりましたみたいなのをテレビで見ると、あれは老人のモチベーションが上がるのではないのかと。老人というか今の世代の老人世代の人たちはテレビがすごく好きなので、テレビで映って、うちの市町村はすごい、こんなに老人頑張っただけで上がったとかみたいにしてモチベーション上がらないかなと。
- 事務局 多分、今やっているスポーツテストは、もともと自信がある人たちが来ているような感じなので。
- 加藤委員 そうですよね。だから、健康度を上げるにはあまり関係ないような。ロコモのあれとかで低かった人が上がったというそのボトムアップじゃなくってはいけないから、あまり高い人にさらにやる必要があるのかなと。
- 事務局 放っとしてもやっている人たち。
- 加藤委員 放っとしてもやる人たちで、自慢するためにやるような。
- 坂巻委員 だから、チャレンジスポーツフェスタみたいな、みんな抱き合わせでできれば。
- 事務局 そういう会場の中で一緒にやったり。
- 坂巻委員 いろんなところで。

このグリーンロケッツの人とかのふれあいとかもあるんでしょう、違いましたっけ。

○事務局 やっているときもあったかと思います。

○坂巻委員 そういう有名人じゃないですけども、ブースごとに来ていただいて。

○事務局 これお金もらってやっているやつなので。そうですね、今までやっているものに固執することなく、もうちょっと今の時代に沿った形でやり方を変えるというところですかね。

○加藤委員 何かいろいろこのまま続けるんじゃないくて、これはやめてこっちにもうちょっとお金をかけようとか、やり方を変えようとか、参加者だけのところじゃなくて、この時代に合っているかどうか。

○事務局 確かに、それはもうおっしゃるとおりだと思います。

○坂巻委員 どうですか、ほかにご意見は。

では、そんな感じを出してもらって、担当課のほうでよろしくお願いします。

じゃ、50ですね。高齢者の在宅生活支援事業、介護関係ですね。

○事務局 ほぼ横ばいではあって、若干ずつ変わっているというところですかね。

○坂巻委員 これは介護認定を受けていない方ですよ。

○事務局 そうです。今、若干伸びているのが、一番下の高齢者の移送サービスは比較的、ずっと見ていただくと分かるかと思いますが、ここ四、五年でも伸びていっているの、こちらのほうは、利用率は上がっているというのは聞いています。

ほかはあれですね、介護のほうを受けられない方たちの救済措置なので、制度としてあって、使える方が使っているというところですよ。

○坂巻委員 介護を受ける方たちは、例えばケアマネジャーさんとかがいて、例えばこんなサービスがありますよということを多分紹介されると思うんですけども、こういった介護を受ける前の方が高齢者相談室とか行くかもしれないですけども、どんなサービスがあって、どこに申し込めば、登録制なのか、その辺のサービス利用の周知徹底というか、その辺は大丈夫ですか。

○事務局 そこはかなりできているというふうには聞いています。市役所だけではなく、高齢者なんでも相談室を我孫子の南地区に開設をして利用数のほうもかなり伸びていますので、そういう相談をする窓口は充実してきているかなというところですよ。

○事務局 その下の51番、達成になっていますね。

○事務局 多分、場所ごとの相談件数も資料にあるかな。

○山下委員 いろんなサービスがあるんですけども、これは市の補助ですか。それとも全額

なんですか。利用のうち、例えば2分の1は負担しているとか。

○事務局 補助制度は多分違うかな。これは実費負担の部分だと思いますね。

○坂巻委員 何割負担とか同じような感じ。

○事務局 民間でやるよりも安価でできるので、どういうふうに支払っているのかな。そこは確認をします。ほかの民間よりも低所得の方たちが使えるようにという制度ではあるので、補助で出しているか、安価で使えるようにしているのか、ちょっとそこはありますけれども。

○山下委員 ほかの利用者にいつているか、契約した事業者、協定を結んだ事業者のほうに出しているか、お金を出しているかというそういう話なんですよ。

○事務局 ものによってももしかしたら違うかもしれないので。緊急通報システムとかは、市のほうで全てそろえて、それが必要な方にボタンとかそういうのをお配りしているという。

○山下委員 これは直接でやっているという。

○事務局 はい、サービスではあります。

多分、いずれにしても事業者に委託をしてやっていただいているので、多分補助ではなく安価で使えるというものが大半だと思いますね。

○山下委員 何を言いたいかというと、全部丸々見ちゃうと、多分民間で競合しているようなものになっていると、民間が不利益になっちゃうのもあるので、勘違いしないように確認しました。

○事務局 そうですね。なので、ご利用されている方の傾向としては所得が低い方であったり、ご自身でそういう手続きがなかなかできない、介護保険につながるまでの救済措置という形で使っているということにはなっているそうなので。

○山下委員 いろんなメニューがあって、介護保険認定を受けていても、こういったサービスはその介護保険の中にないのでみたいなのも多分ありますよね、きっと。徘徊とか。

○事務局 そうですね。緊急通報システムとかはないですね、きっと。

○山下委員 そうなのは、介護保険の認定を受けている人もサービスが受けられるんですか。やっぱり、それは介護保険の認定を受けていない人は……

○事務局 いや、これは受けている受けていない関係ないと思います。障害のある方もこのサービスを使えますので。

○山下委員 単純に考えちゃっているんですけども、私は。だから、介護保険でサービスを受けられるものについては介護保険に任せて、そこで見れない部分をやればいいんじゃないかなというふうに思っていて、つなぎというのがちょっとよく分からないんですけども、認定

を受けてもらうように、もうそういうふうなことができなくなっているのであれば、要支援でも介護、どちらでも、そっちの方向じゃないのかなど。要するに、これやっていると自分で認定受けなくてもずっとサービスが受けられるじゃないですか。

○事務局 そういうことはしてはいないと思います。委員おっしゃるように、介護の方は、きちんと介護を受けていただくというのが基本にあって、ただ、独居の方とか家族の支援がどこからも受けられない方は結構いらっしゃるようで、その手続を待っている間にやっぱりどうしてもサービスを使ってもらわなくてはいけない方たちにこういうものを提供しているというところはありますので。

○山下委員 一時的に。ちゃんと支援が受けられるというケアが行われると。

ちょっと話が反れますけれども、そういう独居の人で周りの親戚の方とかも近くにいないという場合に、そういう人たちの申請手続は成年後見人とかそういった……

○事務局 制度もありますよね。

○山下委員 それを何か紹介したりとかするんですか。

○事務局 そうですね。成年後見制度も市のほうで持っていますので、そういう方を紹介したりすることもありますし。

○山下委員 市民後見で。成年後見じゃなくてもいいよというような、家族じゃなくて。

○事務局 あとはご自身と会話が繋がらない方とか、なかなか手続にすごい時間がかかる方もいらっしゃるというのも聞いておりますので、そのための救済措置というイメージではあります。緊急通報システムとか、あと徘徊探知システムとか、そういうものは若干違うかもしれないですけども。

○山下委員 これは誰でも受けられる。

○事務局 そうですね。

○坂巻委員 ご意見、大丈夫そうですか。

50番のほうは遅延ですけども、必要なサービスということもありますし、今後も続けていきたいと思うので、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、評価のほう、48から52の事業の中で、5つの中3つが遅延になっていますけれども、どれも事業的には継続して。どうですか、評価のほうのご意見は。

○山下委員 年間の数からすると、ちょっと厳しいかもしれないですね。目標値の立て方自体の問題なんじゃないですかね。事業として別に遅延しているわけではない。

○坂巻委員 全体的にそういう指標とかいろいろ見直したりとか、考え方なんていうことで、

ほぼ順調でよろしいですかね。

いかがですか、皆さん。

○山下委員 49は外部的要因が大きいので、あまり考えなくていいかなと思います。

48というのは、これは、ほぼ遅延といっても横ばいですよ。

50というのをどうふうに評価すればいいかなと。それなりのニーズはちゃんとあって、大体1,000人前後ぐらいがずっと。

○事務局 本来50番は、委員がおっしゃったように、介護保険のほうにきちんとつながれば、数字が伸びていいものではないと思いますので。

○山下委員 そうですよ。

○坂巻委員 ほぼ順調ということで、よろしくお願ひしたいと思います。

○事務局 ありがとうございます。

○坂巻委員 それでは、引き続き、53から57の評価です。こちら5の事業のうち、4つが遅延ということで、54、55、56、57が遅延ですね。

まずは、54のほうです。自治会による自主防災。資料は39ページですかね。

何かご意見ありましたら、お願ひいたします。

○事務局 これ、去年もたしかご説明したんですが、自治会数のほうが住宅開発等で増えて、自主防災組織のほうが横ばいというところだったので、多分組織率のほうが低下してしまっているんですね。

○山下委員 新しいところはつくりゃないんじゃないかなかったですか、防災組織。

○事務局 今の我孫子市の住宅事情でいくと、若い方たちをターゲットにした住宅が多いので、そういうところですぐなかなか自主防災組織というのが立ち上がるかというとなかなか難しいかなというところですね。

○山下委員 大体、ベッドタウンで、要するに我孫子地区というか、台田地区をこの間見させていただいて、ああいうところだとみんな大体、昼間はいない状態ですよ。

○事務局 不動産屋さんもやっぱりそういう価格設定で売り出しをしているので、どちらかというと若い子育て世代の方が多いですね。

○事務局 そういうところに市のほうからしっかりアプローチをして、必要性を説いていくというのが。今自助というのがすごい重要と言われているので、これは本当に厳しい数字なのかなと。もうちょっと上げていかないといけないのかなと思いますけれども。

○事務局 自治会加入率は最後にあったよね。

○坂巻委員 61のところですね。

○事務局 ここも、そもそも自主防災組織以前に自治会にまず加入という、そのところも伸びてきていないので。

○加藤委員 自治会というとなかなか難しいんですけども、私なんかはわが家が、こういう災害救助みたいな研修とって来てくれた講師の人が、やっぱり3.11の後とかだったりしたのでママたちの意識が非常に高かったから、結構今の人たちはそういう育児サークルみたいなものを持ってたりママのサークルを持っているので、そこにアプローチをするという話もあって、そこでママたちのイベントとして、自家発電の使い方とか、実際に災害があったときにどんな避難をするかというママたちのネットワークはすごく大きいので、あとやっぱり実際は男の人たちが立っている感じがあるんですけども、女の人にアプローチをしたほうが良いという話がありました。

だから、ママサークルみたいなやつで、そこに呼んでくれないかというような感じで、松戸とか流山とかそうですね、ママが立ち上げているサークルの中で防災のそういうイベントみたいな、実際に消防車来て、そういうイベント型で何かやって、実際に子どもをしょってどこまで逃げていくとか、そういうお互いにそんなのをやったり。

○事務局 そういう視点ですね。

○加藤委員 やっぱり誰が一番危機感を持っているかと、ちょっと薄れてはいますけれども。でも、この間、千葉も去年台風とかもありましたし、そういうときに一番困るのは子ども連れた方なので。

○事務局 先ほど私、自助と言っちゃいましたけれども、そういう意味では、それが正に自助で、自主防災組織のほうは共助に当たるのかな。近所の人とか、ご老人とかがいるところで声をかけるとか。

○加藤委員 そうなんですよね。うちもできないかなと思って、私、最近、もうちょっと町会のほうは遠のいちゃったので、子どものうちに町会の児童部の役員をやらせていただいていたときは、老人会というとな怒られちゃうんですけども、すみれ会という頑張っているおば様たちがいて、そっちとこの児童部を引っつけられないかなと思って、クリスマス会をずっとやっていたので、ハロウィンイベントに替えようよとって、そちらの老人会のおば様たちのご協力をいただいて、ハロウィンイベントを老人会と児童会でやったりとかしたんですけども、それを防災イベントに替えるということも考えたんですけども、そこまでは達成しませんでしたけれども。そういうお互いに、子連れでうちにいる世代と、うちにいる世代とをつなげた

ほうがいいのかなど。

○事務局 そうですね、ふだんのつながりがやっぱり防災のときとかにつながってきますし。

○加藤委員 子ども110番みたいなのは、本当はそういうハロウィンイベントとかに本当はつなげて、顔見知りになれば、あそこで何くれたおばちゃんだよみたいな、そのほうが声かけやすかったりするのかなと小学校の役員をやっていて思いました。

うちの地区、ちょうど通学路に当たっていたんですよ、うちの家自体が。110番の家とか本当はそういうのができたらいいなという気がしました。

○事務局 確かにアプローチの仕方が、これを所管しているのが防災関係の所管なので、なかなか若いお母さんをターゲットにという発想は、もしかしたらないかもしれないので、ちょっと違う視点からアプローチをかけて伸ばしていくということは、これからできることの一つかなと思いますね。

○加藤委員 お母さん同士もつながるのはすごく大事なので、本当はそれこそ健康に取り組むイベントとかと抱き合わせのほうがいいんじゃないかと思ったりもするけれども。

○山下委員 自治会の中の一つの組織という位置づけではないんですか。

○事務局 いや、でも、そうですね、実態としては。

○山下委員 自治会の中に何とか部、何とか部みたいなふうに立てたりして、イベントをやったりして。

○事務局 イメージ的には多分そんな感じですね。

○山下委員 そんな感じ。だから、話を持っていくのはどうしても自治会……

○事務局 当然、自治会ではあります。

○山下委員 つくってねという感じですね。どれぐらい語りかけしているんですか。

○事務局 どれくらい、どうでしょうね。

○山下委員 あるところはずっと継続してやっていくんでしょうね、きっと。

○事務局 そうですね。

○山下委員 よほど町内会で人が減っちゃって、高齢化が進んじゃっているところはともかくとして、既存の自治会があるところは増えたり減ったりとかしないから、ずっといくんですよ。

○事務局 一応残ると思います。今おっしゃったように、高齢化の問題等がありますけれども、それを理由になくなるということはないかと思いますね。

○山下委員 そうすると、さっき話した新しく住宅開発をして、増えているところはなかなか

そういった組織をつくってくれないというようなことがあったとすれば、そこが要するにポイントなわけですね、きっと。そこだけを重点的に話をする。自治会自体はあるわけだから、その町内会長さんとかに、そこに本当に必要性を説いていく。

○事務局 さっき加藤さんがおっしゃったように、実際に災害が起きたときに適切に避難したりとか、あと助け合ったりとかということが本当に大事なことだと思うので、何かこれだけ見るとその組織をつくるのが目的みたいになっているような気もして、本当にその必要性というのをまずしっかり伝えていくというほうが大事なのかなという気がします。それで、その上で組織が必要になるねという話になってくるので、そういうアプローチを、ちょっとこれだけ見るとしていないような気もするので、ほかにまた別のやり方があるのかなという気はしました。

○山下委員 自主防災組織とかなくても、例えば消火訓練をやっているとか、そういったのはあるかもしれないね。

○事務局 自治会さんでね。さっきおっしゃっていた防犯とかそういう部みたいなのがあって、そういうところで結構おやりになってはいるので。ただ、自治会の加入も含めて、地域の力というところでいくと、まだまだ十分でないところもあるかと思えますので。

○加藤委員 次の世代を育てるような、お孫プロジェクトとか。

○山下委員 入っていると、これだけのメリットがあるとか、入っていないとこういったことが困るとかいうのがあれば、インセンティブがあるんだと思うんですけども。昔はよく、ごみを捨てられないとかね。

○事務局 今、ごみは自治会じゃないのでね。昨年も多分お話が出て、こういう自主防災組織や自治会に入るメリットをもうちょっとお知らせしたほうがいいんじゃないかという課題もあったんですが……

○山下委員 お金を払ったりとか、役員を何年に一度やらなくてはいけないというふうな負担もあるわけじゃないですか。

○事務局 そうですね。なので、昔みたいに自治会に入っていないとごみを捨てられないみたいなのがあれば、皆さん入るんでしょうけれども、今はそうではないので。そういう意味でいくと、委員おっしゃったように若いお母さんたちに働きかけて、地域のそういう根底から皆さんに協力していただくようにアプローチするというのも一つでしょうし。

○加藤委員 日中とか、この地域に一番いて、そこから出ないのは子育て中の人と、それから老人なので、ここがどうにかつながらないかというふうに思いますけれども。

棒田明子さんを知っていますか。お孫プロジェクトみたいなのをいっぱいやっている人で、ファザーリングジャパンの理事とかもやっているんですけども、横浜のほうにいらっしゃるんですけども、老人と子育て中の方、自分がすごいおばあちゃん子で育て、すごいよかったみたいで、お孫プロジェクトみたいなのを立てている人で。彼女のお孫教室、すごく面白くて、そういうのもつながって、こういう防災とか自助とか、そういう老人への声かけにもつながるんじゃないかなと。地域が温かく、それこそ老人が赤ちゃんを受け入れてくれれば、産む人も増えてくるんじゃないかなと。これすごいこれから大事んじゃないかなと思いますけれども。だから、お孫講座、あちこちの自治体でやらせてくれないかなとちょっと思ったりもしますが。ボランティアでなかなかするというのはね。

松戸のNPOさんで一回、このコロナのぎりぎりの2月ぐらいに、お孫プロジェクトをやらせていただいて、すごい彼女のお孫のいいですよ。そういう自治会を組織するのとか、そういうのにも役立つんじゃないかなと思います。どっちかだけに声かけても。

○事務局 あとでちょっと調べてみます。

○坂巻委員 自治会の加入とか担当課が分かれているので、高齢者の健康づくりとか、子育てとか、自治会がキーワードでいろんな課に投げかけていただきながらやっていただけるのが一番かなと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

54については大丈夫そうですかね。

では、55ですね。地域における防犯活動、こちらも自治会絡みですね。

○事務局 そうですね。これも目標値が結構高かったもので、遅延にはなっていますが、回数自体を、これも多分資料がついていたかと思うんですが。それぞれ見ていくと、それほど大きな変動はないかなというところですね。皆さん、結構コンスタントに活動はしていただいているというのが実情です。

○坂巻委員 いかがですか。意見のほう、よろしくお願ひします。

○事務局 子ども見守り隊という地域の方たちが大分活動が活発になってきて、令和元年は結構横ばいではあるんですが、多分来年これ減るんですよ。やっぱりコロナの関係で、活動をされている方がご高齢の方ということで、結構お外に出るのを控えている方がいるという話は聞いていますので、そういう意味では令和元年度までは、遅延ではありますがほぼ順調には活動していただいているかなというところですね。

みんな本当にありがたいですよ。毎日やっている方たちもいらっしゃるので。

○加藤委員 雨の日も風の日も。学校のPTAとかでやるパトロールとかも全部中止になって

いますか。

○事務局 それとはまた別です、これは。PTAはPTAで、また別にやっていますね。学校支援ボランティアのほうで多分出てくるかな。

○事務局 PTAも入ってはいますかね。

○事務局 入っているかな。カウントしていたっけ。あら、失礼しました。学校支援ボランティアのほうにもカウントしているな、それ。

○事務局 あれとは違いますよね。通常の登校時の、あれとはまた別のものでカウントされていますね。

○事務局 あっちは役員さん。それ以外にないかな、PTAだけでやっているやつじゃないと思ったけどな。何だろうね、これ。

○加藤委員 何かカウントの仕方がばらばらみたい。入れているところもあるよね、毎日とか。

○事務局 本当だ。確認しましょう。そうですね、両方でダブルカウントになっちゃっているな。

○坂巻委員 じゃ、その辺はちょっと確認していただければ。でも、活動のほうは横ばいなので、おおむね順調に進んでいると思います。

○山下委員 市内の犯罪の数は減っているのでしょうか。

○事務局 市内犯罪数は少ないですね、もともとかなり少ないです。この間、県内の犯罪数が減っているというデータをいただきました。市内はもともと少ない。

○事務局 我孫子市は少ないですね。

○山下委員 もう十数年減ってきていると思うんですけども、ひったくりだとか車上狙いとか、そういうのは多分、こういうふうなパトロール活動とかで。よく千葉県、振り込め詐欺みたいな、ああいうのはどうですか。

○事務局 振り込め詐欺は、相談数は増えていますね。

○山下委員 被害額も大きいじゃないですか、あれって。だから、そっこのほうにもちょっと力を入れていかないと、防犯で。割とパトロールは、確かに変質者とかもいたりとかして、子どもの安全、それはそれで大事なんですけれども、多分減っているんですよ。

○事務局 今どっちかという、おっしゃったように特殊詐欺とかのほうが増えていますからね。多分、その関係の指標というのは、今回のこの中にはないのですが、課題としてはあるかと思しますので、附帯意見のほうにつけて。

○山下委員 増えている犯罪に対してどれだけ。

○事務局 そうですね。これ、申し訳ない、所管が違うので、そういう視点が入ってきていないので、これ防犯なので市民安全課なんですけど、今おっしゃっていた特殊詐欺だと消費生活ということになるので、また違う商業観光課というところでやっているの、またそれは別途で伝えたいと思いますので。

○事務局 防犯というのがなかなか難しく、本当に相談になっているので、啓発ですね。そういう人にかからないようにというほうの防犯ですね。させないというのはなかなか難しい。

○事務局 今テレビでやっている、おうちの人がいれば注意できるねと、そういうことだよ。

○事務局 そういう意味だと本当に、自治会とか隣近所の付き合いで、すぐ相談できるような環境というのが必要になるかもしれないですね。

○事務局 そういった啓発活動がね。

○坂巻委員 それもまた各資料の課題にさせていただいて、よろしくお願いします。

次に行きたいと思います。

56、市民バス、こちらは資料は45ページです。

○事務局 市民バスは、新木ルート以外が軒並み減っています。

○事務局 これ、でも、コロナの1か月とかも大きいかもしれないですね。

○事務局 根戸ルートとかは朝と夕だからね。

○坂巻委員 これは、事業の改善点というか意見、ニーズに合わせて改善策を考えているということが書いてあるんだよね。何かルートが変わったりとか、何かバス停が増えたりとかするようなことはあったんですか。

○事務局 ここのところはないですね。

新木地区が一度ルートとバス停のほうの変更をしたんですが、それ以降はありませんね。そこが減ってはいたんですが、ほぼ横ばいで推移はしてきているので。ただ、いかにせん全体的にはそれほど量が乗れないし、利用もそれほど伸びてはいないというところで、赤字なことには変わらないですね。

あとは本当に、今後、市としてこの公共交通をどうしていくのか、バスだけに委ねていくのか、それとも買い物支援等を含めて、もう少しタクシーのほうの支援をしていくのか。はたまたほかの手法を考えるのかというところは課題ではあるというふうに認識はしていますので。来年度、その公共交通の関係の計画の改編がありますので、そこで大きな方向性が見えてくるかなというところですね。

○坂巻委員 前回の市長との話でも、赤字だと市長が言っていましたよね。

○事務局 そうです。赤字路線。

もともと民間さんで赤字だから通さないルートを市が通しているのだから、赤字のところに通しているから、もう必然的に赤字にはなるんですね。

○坂巻委員 難しいですね。全くなくしてしまうのも。利用されている方もいらっしゃるし。

○山下委員 そもそも交通弱者対策なんですよ。

○事務局 そうです。

○山下委員 そうですよ。だから、人数が減っていこうが否応ざるを得ないというか、そういう事業なんですよ。

○事務局 そういうことですね。

○山下委員 今使っている人は継続的に多分使われているかなと思うので、これを伸ばしていくという、目標を増やしていくということのほうがかなり厳しいんじゃないかなという、そういうものじゃないので。要するに運搬で、もとの取れないところを行政的な目的がありますよという、意味がありますよということで、赤字覚悟というか、そのつもりでやられているということで、タクシーとかも使っていこうという話で交通弱者対策なんだから、これはしょうがないですよ。

○事務局 そうですね。ただ、住民の方からのご要望の割には、皆さん使っただけでないという実情もありますので。

○加藤委員 何で使わないのかな。やっぱり時間で来るとかというのが、やっぱり使いたい時間と違うのかな。

○事務局 自分の都合の時間に走っていないとか、あとバス停までちょっと距離があるとか、いろいろ理由はあるようですけれども。

○山下委員 利用料金はどれぐらいなんですか。

○事務局 利用料金は、幾らだっけな。そんな高くないですよ。

○事務局 1回150円でしたかね。

○事務局 なので、運行の時間帯とかバス停とかもいろいろ見直しはしてきてはいるんですが、引き続き、さらに高齢化が進んでいくので必要だとは思っていますね。

○加藤委員 タクシーとかの人はどうなるんですか。タクシーも結構、タクシー業界も厳しいですよ。あまり数がないという話と高齢な人が……

○事務局 働く方が高齢化していてね。

○加藤委員 だから、タクシー拾えないし、雨の日なんかはますます拾えない。

○事務局 そうですね。本当にちょっと、これから高齢化が進んでいくので、本当にどういう公共交通の支援が必要なのかというのは、いま一度見直しは必要だと思いますね。

なかなか自分一人でバスに乗るというのも結構ハードルが高いようなので、自分で押さなければ降りれないですからね。そういうのもあって。

引き続き、見直しは必要ということは認識はしているので。

○山下委員 結局そうしないと、80になっても90になっても車を運転するということになりますからね。それもちょっと、やっぱりちょっとね。何かそれを逆にやらないと高齢ドライバーは減っていかないですよ。

○事務局 今日、うちの近所ですれ違ったら、おじいちゃんバックできないんですよ。びっくりして、どうしようと。すごい広い道路なんですけれども、バックできないで、行ってくれと合図を送られるんですけれどもね。そういう人も乗っていきやいけない時代になっているので。

○事務局 そういう人、市民バス以外にも病院のバスとかにも乗れるように、市で補助とかしてやっていたりするので。免許の自主返納というのも同時に進めてというのもあるので、余計なくせないといえますか。

○坂巻委員 このバスは、車椅子は乗れないんですよ。

○事務局 今は乗れなくなっていましたね。

○事務局 狭いところを結構入っていったりするのです。

○事務局 バスが低床のやつを造らなくなってしまったんですって。なので、根戸辺りはマイクロー系のバスに切り替えて、小回りが利くようにしてしまったので、ベビーカーのお母さんからはちょっと乗りづらいという話とかは聞いていますけれども。そういうところでは、ちょっと使いづらい人がいるのは事実でしょうね。

○山下委員 車椅子の人が移動するとなると、福祉タクシーとかになると高いですよ。

○事務局 高いですね、福祉タクシーは高いです。

おっしゃったように、バスも昨年、料金見直しをかけて値上がりをしてしまっているので、ちょっと距離を乗るとかなりお金がかかってしまうので。今後も課題というところですね。

○坂巻委員 そうですね、これは課題でお願いしたいと思います。

では、次に行きたいと思います。

57の成田線のことについてですね。これは補足することは。

○事務局 こちらは、物理的にもうこれ以上は無理ですので、次は見直しの段階で、指標自体

もどうかなど。

○坂巻委員 市でできることが限られている。

○山下委員 要望活動自体は続けていくにしても、これを成果シートにするというのはちょっと。

○事務局 上野東京ライン自体がもう宇都宮線とか高崎線とか入っているので、これ以上本数を増やすことができない状況で、常磐線の本数はもう変わらないので。成田線からの乗り入れというのを増やすと、今度常磐線が減るとい、なかなか難しい状況。

○坂巻委員 これは仕方ないか。どうしようもない。

○事務局 でも本当に、今の市長になってから初めてこの電車の本数というのが成果が出てきているので、そういう意味では成果はあったかなというところはあるんですが。本数だけで見ると非常に少ないですけども、今までゼロだったものがやっぱり1本、2本増えていますので、遅延ではありますが、そこは評価はできるかなというところは考えています。

○事務局 これから終電も早くなるので、減らさないということのほうが。

○事務局 今度、そっちだね。

○坂巻委員 じゃ、大丈夫そうですか。これは、担当課どうですか。

それでは、53から57の評価ですね。5つの事業のうち4つが遅延ですけども、横ばいなどもありながらも、いかがでしょうか。成田線は抜かしたとして、3つぐらいですかね。

○事務局 成田線抜かしても、でも遅延多いので。達成しているものがないのかな、ないですね。なので、大丈夫です。順調とは言えないのも素直に受け入れますので、大丈夫です。

○坂巻委員 よろしいですか。じゃ、順調とはいえないということでもよろしくお願いします。

それでは、60から62の評価ということで、3つの事業がありまして3つとも遅延ですね。60、61、62と遅延です。地域コミュニティの活性化というところについて、まず、60の市民活動ステーションについてのご意見をいただきたいと思います。資料だと51ページです。

○事務局 ほぼほぼ横ばいですかね。

これは大きく何かを仕掛けて使っていただくということをそんなにはしていない中では、コンスタントには使われているのかなというところですね。若干3月が閉館していたので、その影響があって、その前の年より少し数字は下がっていますが。

○坂巻委員 横ばいでありながら利用者の満足度が高いということも書かれておりますね。

広報事業に力を入れていくというこの広報事業というのは、具体的にはどんな感じですか。

○事務局 具体的には特段聞いてはいないんですが、指定管理者さんが運営されているので、

多分いろいろ工夫をしていくよというところの一つではあるかと思いますが。

○坂巻委員 指定管理者は何年ごとでしたか。

○事務局 基本は3年でしたけれども、今回延ばしたかな。5年にしていたかな、たしか。3年だと運営にやっと慣れてきた頃に終わってしまうという課題がどうも見えてきたので、最近指定管理者だと大体5年ぐらいにしているケースが多くなってきましたね。じゃないと、向このほうも人を雇い入れるのに制度設計ができないということがありますので。

○山下委員 その施設の存続見込みがまだ中途半端なときは短期間でありますよね。

○事務局 そうですね。安定してきたものについては、ここ何年かは5年に延長しているのが傾向としてありますね。

○山下委員 これは中間支援団体か何か指定管理になっているんですかね。

○事務局 中間支援団体ではないよね。

○事務局 完全に民間が。

○山下委員 NPOでも、NPOを支援する企業体があるじゃないですか。

○事務局 ではないですね。前は若干そういうところでしたが、今回受けているところは全くの民間さんですね。でも、自分たちでもいろいろイベントをやったりしているというのは聞いていますので。ただ、場所貸しだからね、メインがね。

○山下委員 これ、どこにあるんですか。

○事務局 けやきプラザにあります。10階かな。

○事務局 10階です。

この数字を見ていると、結構いい感じというか、かなり3月だけ落ち込んで、多分3月はいろんな団体の総会があったりとか、利用率が一番多い時期だと思うんですけども、そこがこれだけ落ち込んでいるけれども、ひょっとしたらここは300とか上がるとかなり結果としてはよかったのかなと。

○事務局 コロナで休館しているからね。

○事務局 4月が一番多いですからね、利用数が。

○事務局 総会とかいろいろやる時期だね。

○事務局 総会の準備を3月にやるんですよね。

○坂巻委員 いかがですか。ほかにご意見あれば。

○事務局 市で直営でやるよりは、よほどすばらしい施設になっていると思います。

○坂巻委員 じゃ、大丈夫そうですか。

じゃ、続きまして、先ほどもお話し出ていましたけれども、61の自治会の加入ということで。
○事務局 ここはあれですかね、さっきのと合わせて附帯意見を書くようなイメージでいいですかね。

○坂巻委員 お願いしたいと思います。

じゃ、62番のほうですね。地域会議について。よろしくをお願いします。

○事務局 これは、ちょっと設置のほうが遅れていて、本来だともう1か所立ち上がるような動きで聞いていたんですが、やっぱりそのところのお話合いが進まなくなっている。さらに、コロナのほうで集まる機会が設けられないというところで、予定していたところの設置が遅れているという実情はあると聞いています。

ただ、こちらも目標が市内11か所というふうになっているんですが、実際にこの地域会議という名前ではなくても、地域の中で、自治会であったりとかまちづくり協議会さんであったり、いろいろな関係のところがあるところも既に組織化しているところもありますので、次回の計画のときには数字のほうを見直しをしたいなというところではありますね。

○加藤委員 基本的なことで、地域会議というのはどういう感じなんですか。

○事務局 地域にいろいろな団体さんがあるんですね。自治会さん、あとは我孫子市の特徴として、近隣センターを地域の方たちに運営していただくというので、まちづくり協議会というものをつくって、そこで運営していただいているんです。だから、そういうところであったり、あとは団地を抱えるところだと団地だけの連合会みたいな、そういういろいろな団体があるので、それぞれがばらばらではなく、一緒になって地域の課題を考えましょうというのが地域会議ということになります。

○事務局 PTAなんかも入っていますよね、たしか。

○事務局 場所によっては入っているよね。

○山下委員 これは我孫子市独特のものですか。あまり聞いたことはないかな。

○事務局 そうですかね、一歩進んでいるのかな。今総合計画をつくっているんで、ほかの市の状況とかを見たり聞いたりすると、そもそも個の単体自体がまだちゃんと立ち上がっていないような市が多い中では、もしかしたら、それをまたさらにつなげていくという取組は一歩進んでいるかもしれないですね。

さっき言った近隣センターの運営を地域の方がやっているというのは、これは多分非常に珍しい。ほかですと、業者に委託をしてやっている。多分、柏とかはそうだったかしらね。そういう形態が多い中では珍しいケースではあると思いますね。

○加藤委員 今、これ何地区というふうに分けているんですか。

○事務局 大きく大体分けて、市内全部にできると11か所かなというイメージで11に設定していますね。

○加藤委員 それはどういう分け方なんですか。

○事務局 まちづくり協議会ですかね。

○事務局 近隣センターが幾つあるかな。そこが大体中心だよな。

○加藤委員 近隣センターの数ぐらい。

○事務局 ぐらいですね。

○事務局 大体の目安にはなっている。

○加藤委員 私もあまり詳しくはないんですけども、松戸は中学校区ごとみたいなので、中学校区みたいのでやっているのが、あれが地域会議じゃないかなと。

○事務局 中学校区は、学校支援地域本部は中学校単位でやっていますね、うちも。それもボランティアさんの活動というか、それはやっています。でも、本当に今、いろんなものがその地域で立ち上がっているの、高齢者のほうも同じように自治会であったりとか、そういういろんなものが一緒になって地域のお年寄りたちがどうしていったらいいかを考えましょうみたいなのも立ち上がっていて、それは6地区かな。そういうふうになっているので。

○山下委員 いろんな団体が構成員みたいになっているみたいなんですね、きっと。だから、高齢者だったりとか子どもだったりとか、そういう人たちが集まって地域の課題を話し合うという話なんですけれども、具体的にどんなことをやっているんですかね。

○事務局 防災が比較的多いんですね。1か所では、言っていた自治会と、あと小学校がタイアップをして防災事業をやっていたりとか。あと、私が住んでいる地区もあるんですが、ここはごみ置き場の問題を1年かけてやっていて、カラスのネットがあるじゃないですか。あれはもう、カラスは頭がいいので、もうみんな横から引きずり出されてしまうというのが課題としてあったんですが、ぱたんという折りたたみのボックスみたいのをつくって、その上にカラスネットをやってあげるとカラスは引っぱり出せないんです。というのをみんなで話し合って決めて、その取組が成功しているの、ほかの地域にもそういうのを今ご紹介して、結構取り組んでいらっしゃるとうところがあると。その地域、地域でいろいろ課題は違いますが、それがこの地区で解決できたら、じゃ、それをご紹介してほかの地区でやっていただくという取組もしているの。

○山下委員 どんな課題がありますかみたいなのを構成員が聞いて、出てきたものをみんなで

話し合う。

○事務局 そうですね。

○山下委員 これの進行とかいうのは、その事務局みたいなのがやるということですか。

○事務局 いや、市役所の職員はいますけれども、進行自体は皆さんのほうでやっていただいていますね。

○山下委員 自主的に……要するに、設置要領みたいなものがあるんですかね。

○事務局 そうですね。ありますね。おおむねそれで決まっていますが、あまり形にとらわれずに、皆さんがご自由にやっている。我孫子の地区では、1か所、防災に特化した形で、非常に昔の職業柄、ずっとパソコンとかそういうのに詳しい方もいらっしゃったということで、冊子にしようということで1年間取り組まれて、非常にすばらしいものを作っていたところもありましたし。

○山下委員 もう5か所あるんですね。

○事務局 今は5か所ですね。

毎年同じことを検討しているわけでもないようなので、その年、その年で今年は、じゃ、こういうことをやっていこうというのを決めているようです。

○坂巻委員 とても面白いと思いますけれども、ちょっと大変そうですね。

○事務局 大変は大変だと思います。

○坂巻委員 もう少し、さっき言われた中学校区ぐらいの6か所ぐらいで、ちょっと大き目にするとか。市の計画だと5つぐらいに分かれていましたか、地区は。

○事務局 地区は5つですね。それをさらに細分化しているのです。

そうですね、あまり、だからそうか。

○坂巻委員 でも、できればいいんだろうし、理想でしょうけれども、11か所。

○事務局 確かにやられる方たちの負担も大きいのは事実なので。

○坂巻委員 ちなみに、松戸は中学校何校あるんですか。

○加藤委員 中学校二十幾つか。

○坂巻委員 二十幾つですか……4倍ぐらいか。

○加藤委員 でも、大きいので松戸は。

20全部じゃなくて、近隣の中学校2つぐらいとか、うちの地区はですけれども。全部じゃないと思います。

○事務局 そうですね。だから、設置箇所とかそこら辺の方針はいずれにしても見直しをしな

いといけないと思うので。

○坂巻委員 その辺は課題にして進めていただきたいと思います。

○事務局 了解です。

○坂巻委員 それでは、60から62の評価ということで、遅延のものもありますけれども、考え方としていかがでしょうか。指標も少し見直すということでもありますし、横ばいのところもありますし、ご意見のほうよろしくをお願いします。

○山下委員 市民活動ステーションは、ほぼ横ばいで評判もいいというようなこともあるのと、地域会議は11か所が最終目標なんでしょうけれども、増えてきているということですし、遅延、後れているということを言いながらも、ほぼ順調じゃないかなという気がしますけれども。

○坂巻委員 私もそう思います。

大丈夫そうですか。

○加藤委員 すみません、あまり分らないです。

市民活動ステーションのほうも大丈夫だし、地域会議とか、自治会の加入率はいろいろ問題というか課題でしょうけれども、ほかと合わせていろいろ考えていっていると。

○坂巻委員 ほぼ順調ということでよろしくをお願いします。

○事務局 ありがとうございます。

○坂巻委員 最初からちょっと事務局のほうでもう一回、評価の確認だけしていただいてよろしいですか。

○事務局 そうしましたら、B班の前回やった部分も含めて確認をさせていただきます。

まず、基本目標3番の「あびこで子どもを産み、育てたくなるまちづくり」ということで、7ページから始まっています。施策が「出会いから結婚を実現させるための協力支援」ということで、事業番号でいうと23番から。

すみません。基本的方向の中でを抜かしていますね。「結婚・妊娠・出産・子育てまでの継続的支援」ということで、23番から、こちらが9ページの30番、こちらにつきましては、遅延の数も多かったということで順調とはいえないという評価となっております。

続いて、10ページです。

「子育て世帯への支援の充実」ということで、こちらは、事業番号は31から38ですね。12ページの38番まで。こちらは今日、ご確認をいただいたところにして、ほぼ順調という評価をいただいております。

続いて13ページ、「安心して学べる教育環境づくり」ということで、事業番号39番から47番

です。こちらも、ほぼ順調という評価をいただいております。

続きまして、16ページ、基本目標4、「あびこにずっと安心して住み続けられるまちづくり」の基本的方向、「健康づくりの推進」ということで事業番号48から、次のページの中段52までですね。こちらも、ほぼ順調という評価をいただいています。

続いて、生活環境の充実ということで、事業番号53から、次のページの57まで。こちらにつきましては、順調とはいえないとなります。

続いて、18ページの「行財政運営の効率化」、こちらは2つ事業がございまして、こちらは両方達成ということで、これについては順調ということによろしいですかね。

○事務局 最後、19ページ、地域力の向上ということで、こちらは60番から62番まで、ほぼ順調ということになっております。

○事務局 全部、個別のやつが終わって、そのもう一つ上の段階の指標というのを設定しているので、そちらについても、7ページをお開きいただくと、一番上のところに数値目標というものがありまして、①、②、③というふうに設定されております。こちらについても評価のほうをいただきたいなというふうに思っていたんですが、いけそうかな。

○事務局 基本目標2つなので、ちょっと見てみますか。

○事務局 1番が合計特殊出生率の推移、2番目が18歳から49歳までの子育て支援の施策に対する満足度、これは市民アンケートの結果が出ましたので掲載をしています。3番が18から49歳までの学校教育、幼児教育の充実、これに対する満足度ということで載せております。

合計特殊出生率のほうは、目標値が1.37というふうに設定をしたんですが、現況では1.27。ここ数年、平均すると1.25というところにとどまってはおりますが、お一方が産む出生率なので、それほど伸びはしなかったんですが、人数に応じてということでもないの、どうでしょう、難しいところではあります。

○事務局 なかなか正直申し上げて、1自治体が目標として掲げてどうにかなるようなものでも、流山みたいに若い人がどんどん、これから産む人が来るところは上がっているんですけども、結局その分、ほか下がっているのかなと。取り合いでしかないかなと。世の中的に上がっていかないとあまり意味がないような気もするんですけども。

○加藤委員 若い人の奪い合いですよ。

○事務局 そうなんですよ。

○事務局 あと、ここは別の会議になりますが、我孫子の特徴として、3歳児が出生数に比べて伸びているんですよ。それがなぜかという、ほかで生まれた方が我孫子に引っ越してき

て、どうもその目標としているのが保育園であろうと。そこに入るために転入をされる方が多いので、ゼロ歳のときに比べて3歳の子が伸びている。なので、合計特殊出生率は伸びはしないものの、それほど小さいお子さんの数は減少傾向はとどまっているという実情もありますので。

○坂巻委員 この評価の仕方もあれですか、順調、ほぼ順調、順調とはいえないという形で評価するという感じですか。

○事務局 そうですね。

○事務局 この下に今まで見ていただいたものがぶら下がっているという感じですね。全体を見てどうかというところ。

○事務局 本来であれば、もうこういう施策をやってきて、この目標値が上がっていくことが望ましいという指標ではあるのですが。

○坂巻委員 ほぼ順調とか。そういうことですよ。

○加藤委員 これ15ページまでのものの一番上ということですか。

○事務局 基本目標が今こちらで2つに分かれています。15ページまでのもので。

○加藤委員 16からまた新しいものに。

○事務局 そうですね。

○坂巻委員 今まで意見を出していただいた感じでいうと、ほぼ順調でよろしいかと思えますけれども。

○山下委員 同じです。

○坂巻委員 こちら、ほぼ順調ということをお願いします。

○事務局 続いて、では16ページが、こちらも3点ですね。①の市民の平均要介護期間と、②が地域で支え合う福祉の充実、これに対する満足度、③が「あびこに住み続けたい人の割合」ということで、こちらも満足度、市民アンケートの結果なんですが、こちら、ごめんなさい。これ③ですが、ちょっと市民アンケートのほうで設問のほうが漏れてしまったんですが、住宅取得の補助金というのを実施していて、そこでアンケートを取っているんです。そのアンケート結果を載せるという、あれ、私のだけ入っていないですか。みんな入っていますか。印刷入っていますか。

○加藤委員 入っていない。

○事務局 差し替えてと言ったんだけどな。申し訳ない、ここだけは確認をいたします。

ここだけ次のときにしてもいいのですが。

あと、①のところなんですけど、これ資料のほうにも絵付けをされていて、何ページになるかな。ページでいくと31ページです。そちらのほうに①の考え方と、ここ数年の平均と資料を含めて載っています。

ここだけ次に、ここの部分だけあれにしましょうかね。申し訳ない。③の数字を次回お示します。ここの部分だけ次回に持ち越しをさせていただきたいと思います。

①については、いま一度その資料のほうを見ていただいて。

○坂巻委員 ①は、31ページということですね。

②はないですね。

○事務局 ②はそうですね。アンケートの満足度だけなので。

この31ページの資料を見ていただくと分かるんですが、近隣とその要介護の考え方、捉えている数字の取り方が違うよというところで、我孫子市独自のものが下のほう載っていますが、我孫子市は近隣より要介護1の方から見るということで拾っていますということになっていますが、どうなのかしら、平均寿命は。市独自の算出で見たんですが、要介護は短くはなっていないのかな。

○事務局 あんまり変わっていない。

○事務局 横ばい。

○事務局 近隣市に比べると若干短めではありますけれども。近年で短くなっているわけではない。

○坂巻委員 これについては次回の。ちょっと資料を委員の方々に見ていただきながら、分からない点は事務局に聞いていただいて。この未実施のところは、また数字をいただけるということで、よろしくお願ひしたいと思います。

○事務局 次回が一応、所管課を呼んで、ヒアリングというかそういう形式をとりたいなというふうに予定をしているんです。こちらの部門のほうで現状とか課題とか、そういうところを聞きたい部分とかがあれば、そちらのほうにお声をかけようかなというふうには思っているんですが、委員の皆様のほうで、こういうところが課題だからもう少し詳しく聞きたいなとか、そういうところはありましたかね。

一応シティプロモーションを呼びます。今度は、多分3回目は、そういう意味では分科会ではなくて一緒に聞いていただくようなイメージにはなるかと思うので。課題は幾つもありましたが。

あれでしたら、うちのほうで今まで皆さんからご意見聞いていますので、ちょっとこういう

ところが課題というところで挙がっていた所管をピックアップして呼びたいなというふうに思っているのですが、それでご一任いただいてもよろしいですかね。

○坂巻委員 はい。

○事務局 ありがとうございます。

一応、隣の分科会のほうからは、多分シティプロモーションの関係が課題として数年来、挙がっていますので、そこを呼ぶであろうということは聞いておりますが、先ほどの食育のところとか新たに出てまいりましたので、ちょっとそういうところも含めて検討させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

呼ぶ課が決まったら事前にご連絡をいたしますので、そうしたときに質問項目とかがイメージしやすいかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○坂巻委員 お願いします。

議題はその他なので、ほかにありますか。

○事務局 その他ありますか。その他は大丈夫ですか。

○事務局C その他は、また3回目につきましては、日程調整のメールをさせていただきますので、よろしくお願いいたします。